

ス テ ー ジ ア ッ プ

Stage Up

主な記事

- ・ペタンクの楽しさを広めたい
「川崎ペタンク・ボール」
- ・違っているから、おもしろい！
「THEアート・プロジェクト
多文化読み聞かせ隊」
- ・特集 かわさき市民アカデミー
開学30周年

詳細・他

◆ 施設めぐり

- ・ナノ医療イノベーション
センター
夢を叶える医療技術を次々と発信
- ・川崎市黒川青少年野外活動
センター
近くて便利な野外活動センター

◆ 財団からのお知らせ

- ・ランチタイムロビーコンサート
- ・お楽しみコーナー



「Colors かわさき展」は、作者に障がいがあるか・ないかということにとらわれず、一つ一つ作品のありのままの魅力を感じてもらうことを目指す展覧会です。

障がいのあるなしに関わらず親しめる芸術文化活動の環境づくりに向けた「パラアート推進事業」の一環として、(公財)川崎市文化財団が年1回開催しています。

いとう はじめ
Colors かわさき 展より⑦ 伊藤 一 「初秋の…」 2022年 ソフトパステル(赤・青・黄3色)

まだ色づき始めた様々な落ち葉の数々に何を思うのか？きっと答えは各々に有ると思います。…の部分
は皆さまの心の中の声にお任せします。(本人)



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町 28 番 41 号

TEL 044-733-5560(代) FAX 044-739-0085

https://www.kpal.or.jp E-mail: stage-up@kpal.or.jp



当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するための諸事業を推進しています。

ペタンクの楽しさを広めたい 「川崎ペタンク・ボール」



ペタンクというスポーツ(ゲーム)を知っていますか。ペタンクは、1910年に南フランスで生まれた、ボールを投げ合い、目標物(ビュット)により近い者が勝ちというボウlsスポーツです。プロヴァンサルという助走をつけて投球するゲームが変化し、ピエタンク(両足を揃える)からペタンクになったと言われています。パラリンピック種目のボッチャ(パラペタンク)は、ペタンクからパラスポーツとして誕生しました。

川崎ペタンク・ボールの活動

川崎ペタンク・ボールは、主に川崎市を中心にペタンクやスポールボール(世界最古の球技)を楽しみながら、市内のイベントでペタンク体験会などの普及活動を行っています。1995(平成7)年5月27日に、川崎市レクリエーション連盟のインストラクター5名(30代中心)で川崎ペタンク協会を設立したのが始まりです。仲間の家族が脳卒中を患い、機能回復訓練のためにペタンクをやりたいといったことがきっかけだったそうです。基本的に毎月最終日曜日に練習し、現在の会員数は18名、国際大会に出場するメンバーもいるそうです。



▲ペタンク体験をする親子



▲世界選手権参加者の凛々しい姿

一見単純だけど、戦略性が高く奥深い競技

《基本動作》

ペタンクの投球はアンダースローで行い、バックspinをかけるために手のひらを下にしてボール(フランス語ではボール)を離します。投球には、ポワンテ(目標に寄せる)とチール(目標を弾き飛ばす)があります。



◀右側：ビュット
(直径3センチの目標球)。
左側：ボール
(金属製中空、直径70.5~80mm、重量650~800g)



▲足をそろえて、手のひらを下にボールを握り、それっ!

《競技方法》

- ① ジャンケンなどで先攻チームを決めます。
- ② 先攻チームの選手が地面に直径35~50cmのサークル(円)を描き、サークル内から6m以上10m以下の距離にビュットを投げます。
- ③ 先攻チームの選手がビュットの近くに止まるように第1球を投げます。
- ④ 後攻チームの選手が第1球を投げます。
- ⑤ ここからはビュットから遠いチームが次の投球をします。味方のボールがビュットに一番近くなるまで投球を続けなければなりません。勝っているチームは休み、負けているチームが投球します。
- ⑥ 両チームが全てのボールを投げ終えたら1メヌ(1セット)終了。得点の数は、負けているチームのビュットに一番近いボールよりも近くにあるボールの数が得点となります。カーリン ▲距離は正確に計測グをイメージすると分かりやすいかもしれません。こうしてメヌを繰り返し、先に13点取ったチームの勝利です。



初心者から上級者まで一緒に楽しめます

「ビュットから1番目に近い相手チームのボールにぶつけて自チームのボールを1番目にするのができたときや、相手チームのボールに囲まれたビュットを弾き飛ばして位置を変えたときなど、たった1球で形勢を有利にできたり、大量得点が取れたりするから面白い」「フリーコートなので、どこでもできる」「ボールを投げる力があればよいから、子どもからお年寄りまで一緒にプレーできる」「初心者がベテランに勝つことがある」「戦略を考えながらプレーするのが楽しい」「声を掛け合いながらプレーするので、すぐに仲良くなれる」「いつの間にか歩いている。2試合終了時で3,500歩!」と、ペタンクの魅力を語る会員の皆さん。

フランスでは、酒屋の前の広場でパスティス(フランスのリキュール)を飲みながらペタンクを楽しむ光景が見られるほど、身近なスポーツなのだそうです。代表の藤田さんは、「地域の方が手軽に楽しめるような環境ができればと思います。ペタンクは、スポーツが苦手な方も、初心者から上級者まで一緒に楽しめますので、気軽に楽しんでもらいたいです」と話していました。百聞は一見に如かず、あなたも体験してみませんか。

※ 興味を持たれた方はこちらをご覧ください



世界ペタンク・ボール連合
World Petanque and Bowls Federation

国際ペタンク・プロヴァンサル連盟

F.I.P.J.P

<https://wpbf-fmbp.org>

<https://fipjp.org>

■川崎ペタンク・ボール 代表 藤田 雅久

電話 044-944-7850

メールアドレス mafujita@gray.plala.or.jp

違っているから、おもしろい！ 「THE アート・プロジェクト 多文化読み聞かせ隊」



▲代表の三沢範子さん(右)

THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊(以下「読み聞かせ隊」)は、多文化を紹介する絵本の読み聞かせを中心に、いろいろな文化活動

をしている市民グループです。高津市民館で開催された「川崎市市民自主学級 多文化読み聞かせ隊養成講座」を修了したメンバーによって 2011(平成 23)年に結成されました。

「多文化共生」という言葉を日本ではあまり耳にすることのなかった 1990 年代後半、代表の三沢さんは 2 年過ごしたオランダで多文化共生を目の当たりにしたそうです。例えば、お子さんが通学するインターナショナルスクールには、紛争地から来た子どももいました。始業のブザーが空襲警報を想起させるといって、校長がベルを鳴らし歩いて授業開始を伝えるなど、違いを受け入れて行動することが当たり前なことに心動かされたそうです。このような経験から、言葉の違い、障がいの有無といった違いに触れ合う機会をつくり、互いに理解し合える社会を目指す、活動を始めたということです。

多言語による読み聞かせ

読み聞かせは、1 ページずつ言語を変えて読んでいきます。「インターナショナルフェスティバル in カワサキ 2023」では、『はらぺこあおむし』(作・絵：エリック・カール)を英語⇒ドイツ語⇒中国語⇒日本語で、『なんでもできる！？』(作・絵：五味太郎)は中国語⇒日本語で、そのほか 2 作品の読み聞かせを行いました。観客の皆さんは、聞こえてくる音の響きが違うことを楽しみながら、絵本の世界を楽しんでいました。

読み聞かせの本としては、内容や題材が異文化の架け橋となるもの、国や地域の文化を紹介するもの、障がいや多様性、平和をテーマとしたものを取り上げているそうです。



▲観客も一緒に大盛り上がり



▲身振り手振りを交えて熱演

ワークショップの企画・運営

読み聞かせ隊は、さまざまな表現活動を体験したり、劇を作って演じたりするワークショップを行っています。特に演劇ワークショップは、発足以来毎年力を入れて取り組んでいる活動で、今では活動の柱の一つになっています。

2016(平成 28)年度からは、かわさき市民公益活動助成金を得て、障がいのある若者を中心に一般市民が集まって劇を作るワークショップを続けています。長く支援学校で教員をしてきた副代表の塚本純子さんは、「活動を続けていくうちに、子どもたちの顔がどんどん上がってきて、自信がついてきたように思います」と、参加者の様子を教えてくださいました。この活動からは、「つながり隊」という障がいのある若者たちを中心としたグループも誕生し、定期的に芝居や歌、ダンスなどのワークショップを行っています。



▲過去の上演作品 DVD の数々

出合い、発見、つながることを楽しむ

「知らなかった人たちと友達になれて、知らなかったことを知る。その連続で、毎回発見があることがおもしろい」という三沢さんと塚本さんに、これからの活動について伺いました。「多文化共生で、また新しいつながりができているんです。障がいのことに関しては『つながり隊』が核になっていますが、複数の団体から『一緒にやりませんか』と声がかかり、いろいろ動き出しているんですよ」「つながり隊だけにね」と楽しそうに笑い合うお二人。9 月には、多文化共生を視点としたダンスのイベント「カワサキ・インターナショナル・ダンス・アクション 2023」の開催に協力するなど、さまざまなつながりの中で活動が広がっています。

今年 5 月から、高津区末長市営住宅「ふれあいルーム」に拠点を移しました。火曜日と金曜日(10 時～16 時)は「末長ふれあいルーム」の担当として、地域の皆さんが楽しく集い、くつろげる場所を提供しています。さまざまな違いを「おもしろいね」と包み込む THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊。もっと詳しく知りたい方は、読み聞かせ隊のホームページをぜひご覧ください。

■THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊

代表 三沢 範子

メールアドレス theartpro@gmail.com

ホームページ <https://theartproject.jp>



特集

学び ひろがり 深まる

かわさき市民アカデミー

開学30周年

1993(平成 5)年 10 月に開学した全国有数規模の生涯学習講座「かわさき市民アカデミー」(以下「アカデミー」)が、今年で開学 30 周年を迎えます。初代学長は高橋清川崎市長(当時)でした。「学びの場」「自分探しの場」「仲間づくりの場」として、30 年間受講生の学びをつむいできました。

NPO 法人かわさき市民アカデミーの理事の皆さんにお話を伺ってみましょう。



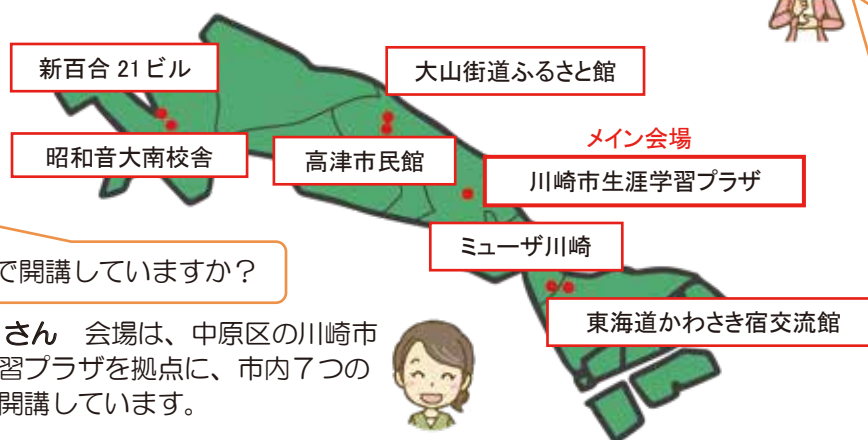
かわさき市民アカデミーとは？

理事 A さん 川崎市民およびその周辺地域の皆さんのための「市民による市民大学」で、市民のボランティアの方々によって運営されています。優れた講師の方々をお招きし、開学時 550 人だった受講生も現在では年間延 5,500 人となり、規模・内容とも日本有数の市民大学に成長しました。



どこで開講していますか？

理事 B さん 会場は、中原区の川崎市生涯学習プラザを拠点に、市内 7 つの会場で開講しています。



どのような講座があるのですか？



理事 C さん 政治・経済、歴史・文学、音楽や美術に加えて、科学系の講座を多数実施していることが特徴の一つです。

私たちの住む川崎とその周辺についての理解を深めていただく「川崎学」では、5 つの講座・ワークショップを実施しています。川崎市生涯学習財団と協働で企画・運営する地域密着型の「地域協働講座」も行っています。「川崎学」や「みどり学」では実際に現地に出向いて学習することにも取り組んでいます。

2023 年度後期は、全 56 の講座・ワークショップを開講します。オンライン併用講座も、多くの方に活用いただき定着しています。56 の講座・ワークショップの内、27 の講座・ワークショップでオンラインを併用しています。



一つのテーマを 3 回で集中的に学ぶ短期集中講座もあるんですね。今期でいえば、『ロシア・ウクライナ戦争』を取り上げた「国際関係」講座・ワークショップや、『AI とロボット空・海・陸の大規模観測と予測』をテーマとした「活躍する科学・技術」講座のように、今知っておきたいことをその道の第一人者から学べるのはとても魅力的です。

30 周年記念のシンポジウムは、受講生以外もオンライン視聴できるそうなので、私も視聴して、途切れることなく 30 年間続いているアカデミーの魅力を探りたいと思います。

外に飛び出し、現地で学ぶ



「川崎学」

地域との密着性が高い



「地域協働講座」

当日の運営だけでなく、企画立案も行う世話人(受講生有志)の皆さん



「運営代表世話人会議」

開学 30 周年記念イベント

日程 12月9日(土曜日)

《午前の部》9 時 30 分から 11 時 30 分

- (1) 記念式典
- (2) 記念鼎談

福田 紀彦(川崎市長)

太田 猛彦(認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー理事長・
東京大学名誉教授)

藤嶋 昭(認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー顧問理事・
東京大学特別名誉教授)

《午後の部》13 時から 16 時

「新しい時代の市民大学」

- (1) 基調講演

講師: 坂口 緑(明治学院大学社会学部教授)

前日本生涯教育学会会長

かながわコミュニティカレッジ運営委員会委員長)

- (2) シンポジウム

コーディネーター: 田中 雅文(日本女子大学名誉教授・

川崎市教育委員会教育委員)

シンポジスト: 坂口 緑(明治学院大学社会学部教授)

大澤 悠季(シブヤ大学学長)

馬場 康雄(かわさき市民アカデミー学長

東京大学名誉教授)

記念イベントには誰でも参加できます。
参加申し込みの詳細は、かわさき市民
アカデミーホームページをご覧ください。
オンラインでも視聴できます！



受講生の声



生活の大事な部分になりました。アカデミーがあるという安心感があります。受講したいときに受け入れてくれて、好奇心が満たされるアカデミーのような所が近くにあるのは幸せだと思います。

私にとってアカデミーは、生活の一部です。好奇心が旺盛なので、何でも知りたいと思い、いろいろ受講しています。



話を伺っていると、刺激になること、参考になることがあります。

私は、プラザに来るために身なりを整えて気持ちも立て直す、その多少の緊張感がいいなと。対面で、仲間と一緒に受講するところに魅力を感じます。

受講生の皆さんが、自分から参加して、いろいろな人と交わりながら、自分なりに考えて行動しているところに魅力があります。



■認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

〒211-0064

中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3 F

電話 044-733-5590

FAX 044-722-5761

メールアドレス info@npoacademy.jp

事務局開室日 平日

お問い合わせ時間 9 時～16 時



ナノ医療イノベーションセンター

京急大師線「小島新田駅」から徒歩約 12 分
JR「川崎駅」、京急大師線「大師橋駅」、京浜急行電鉄・
東京モノレール「天空橋駅」から各社バスを利用



夢を叶える医療技術を次々と発信

川崎区殿町地区のキングスカイフロントにある「ナノ医療イノベーションセンター (iCONM)」(以下「iCONM」)は、いすゞ自動車の工場跡地に作られた研究施設です。川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、国の施策を活用し、2015(平成27)年に運営を開始しました。

ここでは、「体内病院®」と呼ぶ未来の医療システムを、2045年に実現するための研究が進められています。体内病院®とは、ナノサイズ(髪の毛の太さの約10万分の1)の「スマートナノマシン®」が、24時間、どこか異常は無いかな体内を見回り、異常があれば、病状の診断、そして必要ならば治療までを本人も気づかぬ間に行ってしまう夢の未来医療システムです。

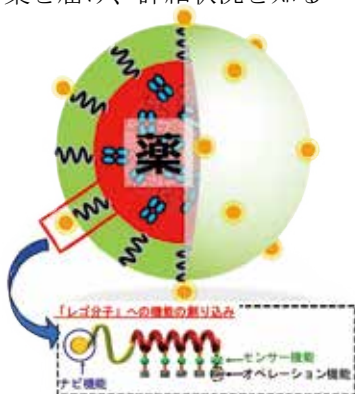
※ 「体内病院」および「スマートナノマシン」は、川崎市産業振興財団の登録商標です。

プロジェクト COINS (2013 年 10 月~2022 年 3 月)

「ナノマシン」とは、ロボットのようなものではなく、たくさんのひも状の化合物からなる「高分子ミセル」という極小粒子です。この「高分子ミセル」の中に薬などを閉じ込めたものが、「機能性高分子ミセル」いわゆるナノマシンです。iCONM で研究している「スマートナノマシン®」は普通の薬とは違い、がん細胞や脳といった体内の必要な場所に届くよう工夫されたものです。そうすることで、副作用が抑えられたり少ない量の薬で効果を発揮できたりします。まるでマシンのように働くことから、「スマートナノマシン®」と呼んでいます。

〇狙ったところに薬を届ける

- 1 血液脳関門を通過し薬を脳の様々な細胞に届ける
(アルツハイマー型認知症の治療)
- 2 腫瘍の奥深くまで画像診断薬を届け、詳細状況を知る
(治療効果の早期判断につながる)
- 3 軟骨形成を促進させるたんぱく質を作らせる mRNA を関節内に投与する
(関節軟骨の再生・変形性関節症の治療)
- 4 血管の特性とがん細胞と正常細胞の違いを利用してがん細胞にだけ、抗がん剤を届ける



プロジェクト CHANGE (2022 年 10 月から 10 年)

「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会の実現」をテーマに、誰もが家で看護することができる道具やシステムの研究が始まっています。

最先端の機器類を備えた研究施設

iCONM の 2 階~4 階は、①モノづくり(合成) ②試験管内での有効性と安全性の評価 ③動物を使った有効性と安全性の評価・研究を行うために設計された実験室が、それぞれの異なる規制に対応できるようにデザインされています。

また、最先端の研究を行うためには、必要とするデータが得られる高度な実験機器類が必要です。iCONM には、最新鋭の機器が並び、それらが正しく働くように保守し、データの保証を行う管理者が常駐しています。

さらに、iCONM は多摩川スカイブリッジを渡るとすぐに東京国際空港(通称:羽田空港)という交通利便性に大変恵まれた場所にあり、さまざまな専門性を有する国内外の研究者が学術研究機関や企業から集まり、熱心に研究活動に取り組んでいます。

ナノスケールが観察できる電子顕微鏡 ▶



川崎から世界へ!

iCONM は、ライフサイエンス分野でこれから起業しようとしているスタートアップ企業に対して施設の一部を貸し出し、技術開発に専念できる環境を提供して、新規事業の立ち上げを支えています。研究室を借りる資金がなくても、ベンチを借りれば iCONM にある最先端の機器や施設が使えて、それらの機器は常に最良の状態に保たれています。また、医師、獣医師、薬剤師、危険物などの免許を持つ人が在籍し、施設も遺伝子組み換えや動物実験、有機合成、精密機器研究を行う環境に準拠しているため、すぐにでも最先端の研究を行うことができます。

シリコンバレーのいくつかの伝説的な企業がガレージから始まったことは有名な話ですが、何年か先には iCONM のベンチからスタートした世界的企業の話聞く日が来るかもしれません。多摩川の対岸で離発着する飛行機が、素晴らしい技術を川崎から世界に届ける象徴のように見えて、川崎にこのような施設があることを、とても誇らしく思いました。



◀「このスマートナノマシン®の模型は、地球の直径を人の身長だと考えたときの大きさなんです」と、案内してくださった島崎真さん。

▲各階に設けられたマグネットエリアでは、多様な背景や考え方、異なる視点を持つ研究者が意見を交わす。

■公益財団法人 川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター

〒210-0821 川崎区殿町 3-25-14

電話 044-589-5700

FAX 044-589-5706

メールアドレス[管理部]

iconmkanri@kawasaki-net.ne.jp

iCONM
Innovation Center of NanoMedicine



麻生区

川崎市黒川青少年野外活動センター

小田急多摩線「黒川駅」南口から 徒歩約 3 分



▲施設外観

近くて便利な野外活動センター

川崎市黒川青少年野外活動センター(以下「センター」)の歴史は、1983(昭和58)年、栗木台小学校開校にともなって廃校になった旧柿生小学校黒川分校を、黒川青少年野外活動センターと名称を改めて開放したところから始まっています。自然の中でさまざまな野外活動を通して自主性や協調性を育み、青少年の豊かな心と体を育てることを目的とした施設です。1991(平成3)年に現在の建物が完成し、現在まで多くの方々に利用され、親しまれています。

駅から歩いて3分、近くにコンビニエンスストア有りという抜群の利便性を誇るこちらの施設は、所長の野口透さんいわく、「本格的なキャンプに出掛ける前の予行練習にピッタリ!」。都会のすぐ近くながら、見渡す限り緑の中に身を置くことができますし、火を扱うことが可能なため、野外炊飯、バーベキュー、手持ち花火などが楽しめます。施設利用料は無料ですが、利用には事前の利用申し込みが必要です。



▲野外炊飯

センターのプログラムは種類が豊富

センターではさまざまな体験ができます。団体でプログラムに申し込んで仲間と一緒に体験するもよし、センター主催のイベントに参加して新しい仲間と一緒に体験するもよし。黒川の清らかな空気の中、心と体を解放して非日常を楽しめます。



学校単位で申し込みが多いのは『くろかわドラム缶ピザ焼き体験』。生地をこねたり、火をおこしたり、仲間と力を合わせて美味しいピザを作ります。

▲大きなお口でパクリ。一緒に作ったピザはおいしいね♪



右：室内でカブトムシについて
左：カブトムシの幼虫採集

昨年人気だったのは、スタッフの大谷さんが企画した『春からカブトムシ博士』。黒川の森には、フカフカな腐葉土の中にカブトムシの幼虫がたくさん生息しています。オスとメス一対を採集して持ち帰り、さなぎ、成虫へと育てることで、里山の暮らしと生命の連鎖を学ぶプログラムです。今年度の実施は見送りましたが、

来年は実施を考えているそうです。

プログラムの種類の豊富さに驚いていると、「コロナ前は多人数で催行する定番プログラムがありましたが、コロナ禍で制限がある中、どうしたら楽しめるだろうか…とスタッフで話し合い、新しいプログラムがいくつも生まれました」と、スタッフの片岡小百合さん。ぜひセンターのホームページで、そのほかのプログラムや内容についてもご覧ください。

かつての青少年も、未来の青少年も、
みんなで守ろう、楽しもう! 黒川の自然

『くろかわ森のようちえん』などのプログラムでは、未就学の小さな子どもたちが森に入って遊びます。危険がないよう、里山の整備は欠かせません。近年話題になっているナラ枯れは、センターの山でも見られます。被害木は放っておくと倒れてきてしまうため、伐採し、薪として有効活用。多くのボランティアの皆さんと協力してSDGsを実践しています。

野口所長は、「近い将来、キッチンカーの営業許可を取りたいと考えています。クラフト材料を積んで学校やおまつりなどのイベント会場へ出かけていき、竹細工などの出張講座とコーヒーをお楽しみいただければと。来所したことがない皆さんにも、黒川の魅力を伝えていきたいです」と、今後の夢を語ります。

かつての青少年も、現役の青少年も、未来の青少年も、近くて便利な川崎市黒川青少年野外活動センターで自然とふれあい、さまざまな体験をしてみませんか。



▲『大人のための珈琲焙煎講座』がちょうど終わった後だったので、自家焙煎珈琲をごちそうになりました♪ 所長がハンドドリッップでいれたコロンビアスプレモは絶品でした!

川崎市黒川青少年野外活動センター

〒215-0035 麻生区黒川 313-9

電話 044-986-2511 FAX 044-986-2522



ホームページ



Instagram



Facebook



note(ブログ)

年末年始・休所日(月1回程度)はお休みです。
施設利用料は無料ですが、参加するプログラムによって料金が変わります。

※利用案内、イベント、体験プログラムについての
詳細はセンターのホームページをご覧ください。

ランチタイムロビーコンサート

生涯学習プラザでは、月に1回お昼の30分間に、ランチタイムロビーコンサートを開催しています。地域の皆さまや生涯学習プラザを利用される皆さまが、気軽に音楽を楽しむことができるアットホームなコンサートです。2012(平成24)年から行っており、さまざまなジャンルの音楽家の方に出演していただき、お客さまには生の音楽をお楽しみいただいております。

小さなお子さま連れの方から高齢の方まで、どなたでも大歓迎です。多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

- ◎会場 川崎市生涯学習プラザ
- ◎時間 12時10分から12時40分
- ◎出演 公募による出演者
- ◎料金 無料



詳しくは当財団のホームページでご確認ください



第129回	2023年10月12日(木曜日)	オカリナアンサンブルKuMu/オカリナ
第130回	2023年11月16日(木曜日)	NEKO MUSIC 島田未来/Esraj(インド弦楽器)、ボーカル
第131回	2023年12月5日(火曜日)	古渡智江先生と「楽しく歌の教室」の皆さん/合唱
第132回	2024年1月18日(木曜日)	Otonoen(オトノエン)/サクソフォン
第133回	2024年2月15日(木曜日)	La Mer(ラ・メール)/ウクレレ、クラシックギター
第134回	2024年3月21日(木曜日)	Fluffy(フラッフィー)/ユーフォニアム、ピアノ



古渡智江先生と
「楽しく歌の教室」の皆さん



メルフィーユ / フルート・ハーブ



伊藤万桜さん / ヴァイオリン



La Luce / 声楽・フルート・三線



アンサンブル花音 / フルート、ヴァイオリン、
ヴィオラ、ピアノ

◆お楽しみコーナー



Stage Up 247 号クイズに答えよう!

「○○○○イノベーションセンター」は、
2015(平成27)年に運営を開始しました。
下の○にあてはまる言葉を入れてください。

『○○○○』※ヒントp.6

【応募方法】



QRコードを読み取り、解答フォームへアクセス、または、①答え ②〒・住所 ③氏名 ④Stage Upの入手場所⑤今号の誌面でよかった記事(理由)を書いて、はがき、FAX、Eメールで担当宛、応募してください。

※締切 2023年11月13日(月) 必着

※正解 ホームページ及び次号に掲載

※正解者3名に500円の図書カードを贈呈
(発表は発送に代えさせていただきます)

〒211-0064 中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習財団 Stage Up(ステージアップ) 担当

Eメール: stage-up@kpal.or.jp

TEL 044-733-5811 FAX 044-739-0085

※個人情報、発送業務以外の目的では使用しません。



☆246号のクイズの答え・・・公文書館

■問合せ
(公財)川崎市生涯学習財団 総務室 電話 044-733-5811